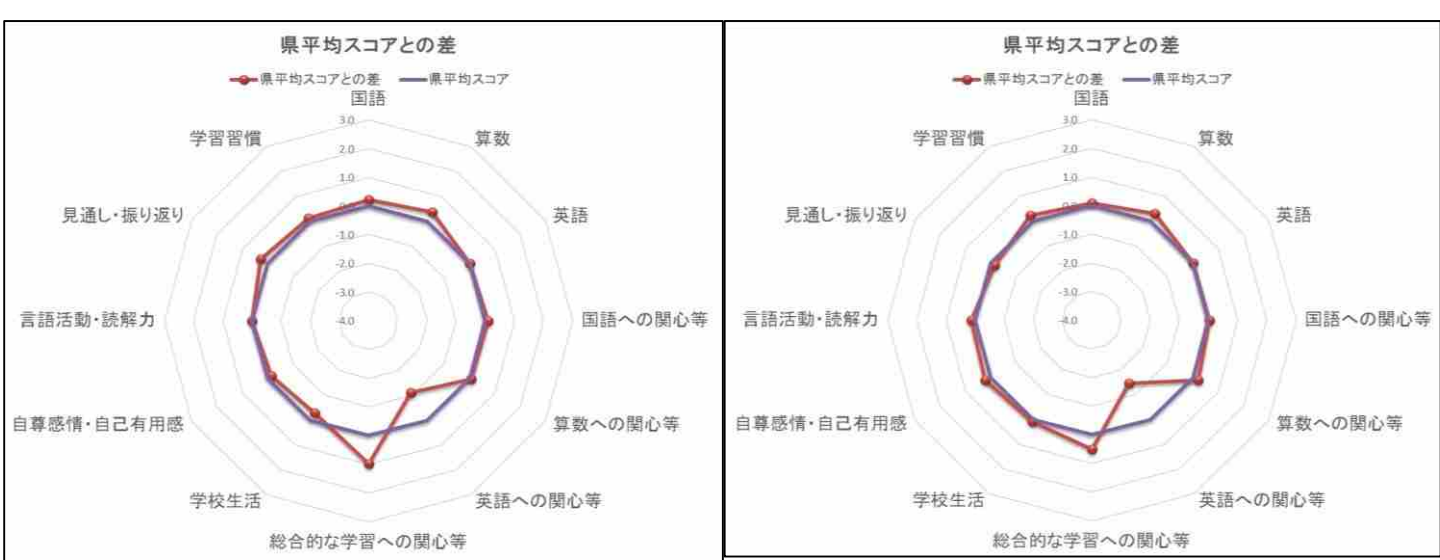


平成30年度 島根県学力調査結果及び分析・対策(松江市立内中原小学校)

(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
5年	国語	○5年配当の漢字の読み、文の構成の理解については、概ねよい。 ○表現を工夫して書いたり、目的に応じて詳しく書いたりする力はある。 ●4年配当の漢字が正しく書けないものがある。 ●ローマ字のつづりが定着していない。 ●話し手の意図をとらえながら聞く力が弱い。 ●目的に応じて、複数の文章を比べて読む問題の正答率が低い。	・漢字については、繰り返し練習したり、生活の中で使ったりするような意識を育ていく。 ・ローマ字については、反復復習や小テストをして定着を図る。 ・授業の中で、伝え合いの場面を大切に、相手の意図を考えたり、自分の意見と比べたりしながら聞いて、自分の意見を話すように意識化する。 ・図書館教育との連携を図り、様々な文章や資料を比較しながら読む活動を行う。
	算数	○概ね県平均よりもよい。 ○「分度器で測る」「体積計算」「四則計算」がよい。 ●分数の減法計算にミスが多い。 ●小数・分数の分配法則(計算順序)の理解が不十分。 ●図形の「合同・条件・作図」に弱い。 ●比割合が難しい。	・計算の仕方の理解と定着を図る。 ・立体の展開図の理解と図形の特徴の理解が深まるような学習に取り組む。
6年	国語	○「漢字の読み書き」「話し合う」「段落相互の関係を考えながら読む。」については、すべて県平均より高い。 ●ローマ字の定着が悪い。 ●資料から自分の考えを持って、字数制限の中でまとめて表現する力、目的に応じて、複数の本や文章を比べて読む力が弱い。	・内小スタイルの学習システムを継続する。 ・ローマ字については、5、6年時においても反復練習を行うよう働きかける。(自主学習などで) ・学校図書館活用教育を進める。 ・文章を読むための、接続語や指示語などの基本用語の使い方の学習を行う。 ・説明文で問われていることやその答えがわかるところなどに線を引くなど見つける方法を指導していく。
	算数	○全体及び全ての領域で県平均を上回っている。 ○16問以上正解の子が、県よりも多い。 ●理由や説明を書く問題の正答率が低い。	・ドリル学習で、引き続き基礎基本の定着を図る。 ・対話により、答えを導き出す過程や、なぜそう考えたのか等、説明する機会を増やし、多面的な考え方ができるようにする。

(2) 各学年・各教科の調査結果チャート



(参考) 平均正答率

		国語	算数
5年生	本 校	67	63
	松江市	63	55
	島根県	63	55

受検者数
5年生 119 人

各スコアの範囲は-4から+3までで、島根県のスコアは基準値の0となっています。
スコアが0より大きければ大きいほど、島根県よりも「当該教科で平均正答率が高かった」、あるいは「当該カテゴリで肯定的回答が多かった」という結果になります。

(参考) 平均正答率

		国語	算数
6年生	本 校	68	65
	松江市	69	60
	島根県	67	59

受検者数
6年生 125 人

(3) 生活・学習に関する意識調査から見られた傾向

平成31年2月15日

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
5年	授業改善に関わる事項	○授業の中で目標が示されており、振り返りもされている。 ○総合的な学習での充実度が高い。 ○国語、算数とも、よく分かる子が多い。 ●家庭学習のやり方がよく分からない子が1/3くらいいる。 ●国語、算数が好きだと感じている子が少ない。 ●外国語は、分かる子も好きな子も少ない。	・家庭学習にやりにくさを感じている子に、具体的なやり方の例を教える。 ・分かると感じている子たちに、分かる楽しさや喜びを感じられるような学習活動の工夫をする。 ・算数では、学んだことが生活に生かされていることが分かる指導を行う。 ・生きている英語、伝わる英語、つながる英語となるように、アクティブラーニングを行う。
	家庭学習に関わる事項	○宿題・予習・復習をかなりの子がしている。 ●37%の子が、学校外での学習時間が1時間以下。 ●平日に、テレビ等の視聴時間が長く、ゲームやスマホ等も長時間する子がかなりいる。	・メディアコントロールについての学級指導を継続して行う。 ・睡眠時間の確保やスマホや携帯等を使用する時間について、家庭と連携して取り組む。 ・自主学習について指導をするとともに、児童が進んで自主学習に取り組むような工夫を行う。
6年	授業改善に関わる事項	○めあての設定により、何を学ぶのかが明確になり、学習内容をしっかり捉えられるようになってきている。子どもの自信につながる。 ●発表する機会は授業の中で設定されているが、子どもの発表に関わる意識とのずれが見られる。 ●外国語活動が楽しいと感じている子どもが少ない。	・授業で学んだことと生活を結び付けて考える場面を設定するなど、学習事項が有用性をもてる学びにする。 ・ペアやグループでの学び方の改善を図る。 ・外国語活動においては、実際の生活の場面を想定したり、子どもの興味関心に沿った動きのある活動したりするなど、楽しく意欲的に取り組める授業を展開していく。
	家庭学習に関わる事項	○宿題・予習・復習をしている子が多い。 ○平日10分以上の読書をする子の割合が低かったが、10ポイント以上多くなった。 ●45パーセントの子が、学校外での学習時間が1時間以下である。 ●およそ30%の子が、平日に、テレビ等の視聴時間や、ゲームやスマホ等の使用時間が2時間以上である。	・メディアコントロールについての学級指導を継続して行う。 ・睡眠時間の確保やスマホや携帯等を使用する時間について、家庭と連携して取り組む。 ・自主学習について指導をするとともに、児童が進んで自主学習に取り組むような工夫を行う。

(4) 生活・学習に関する意識調査の結果

